

学校評価シート		東海市立上野中学校		○教育目標	・英気・剛健・協調	
住 所 東海市名和町奥平戸28 電話番号 052-603-1248 校 長 名 林 智子		児童/生徒 503名 16学級 (内 特支2)		○重点努力目標	・「かたばみ三訓(夢、鍛錬、挨拶)」の実行	
○地域の特徴		・開校70年超の伝統があり、地域とのつながりを重んじる気質がある。		○地域の特徴	・開校70年超の伝統があり、地域とのつながりを重んじる気質がある。	
中期目標	今年度の目標	評価方法 (アンケート項目)	結果の分析 (数値は肯定的回答の占める%)	課題と対応策	学校評議員会 【実施日】令和8年2月10日	来年度の改善策(R7記入分) (誰が何をどうする)
学校生活	礼節と責任を重んじ、豊かな心で他と協力する生徒の育成を目指す。	○学校生活に関するアンケート実施 ・生徒への質問：1、2、6～8、15 ・教師への質問：1～4、7、19、20 ・保護者への質問：1、2、4、5、9、10 ・地域住民への質問：1、3～5	(評価 B) (1)生徒アンケート結果 ○問6「先生は努力を認めてくれる」78.4%→78.8% ○問7「先生は困ったことがあるとすぐに対応してくれる」84.8%→84.1% ○問8「困ったことがあるときに相談できる人がいる」84.8%→85.1% ※問6・7については、「よく当てはまる」が昨年度より増加(問6：28.9%→36.2% 問7：42.9%→48.5%) (2)教師アンケート結果 ○問2「子どものよいところを認め、褒めている」95.0%→95.0% ○問7「気軽に相談できるよう配慮」90.0%→95.0% (3)保護者アンケート結果 ○問4「子どもは学校生活が楽しいと感じていると思う」74.5%→78.3% △問9「学校の先生(担任を含む)は相談しやすい」72.0%→68.8% △問10「学校は子どもに困ったことがあるとすぐに対応してくれる」60.1%→59.5% (4)地域住民アンケート結果 ○問4「生徒達は学校に通うことが楽しそうだ」70.8%→71.4%	【先生は努力を認めてくれる】 ・生徒評価は78.8%と昨年度に続いて増加した。特に「よくあてはまる」の割合が増加している。保護者の「子どもは学校生活が楽しいと感じていると思う」の評価も78.3%へ増加した。教師の自己評価は変わらず95%であった。 ・生徒アンケートからは、学校が好き86.4%、一生懸命清掃に取り組んでいる91.0%、さわやかなあいさつを心がけている77.7%など、学校生活の様々な場面において、前向きに協力して学校生活を送っている様子が見られる。学校行事や学校公開日などを通して、生き生きと活動する生徒の姿を多くの保護者に見ていただくことや、生徒の活躍の様子を情報発信することで、保護者が安心して通わせたい学校となるよう取り組んでいく。 【困ったことがあるときに相談できる人がいる、学校の先生(担任を含む)は相談しやすい】 ・生徒評価は85.1%と増加した。教師の自己評価も95%と高い水準であり、相談しやすい体制づくりを心掛けている様子がうかがえる。一方で、保護者評価は68.8%に減少した。 ・生活アンケートや教育相談など、生徒が教師に対して悩みを相談する場合は確保、設定されており、関係性も良好である。保護者と教師が、生徒のよりよい成長のために共に考え相談できる、開かれた学校づくりが課題である。 【先生(学校)は困ったことがあるとすぐに対応してくれる】 ・生徒評価84.1%、保護者評価59.5%と、ともに減少した。 ・年々、トラブルが発生した際の背景が複雑化してきている。事案が校外やインターネット上で発生することで、関係者への聞き取りや事実の把握に時間がかかることも多い。迅速かつ丁寧な情報収集を心掛けるとともに、担任だけでなく関係する職員、校外の関係機関とも連携して複数で事案対応を行うことで、保護者の理解を得られるようにしたい。	・地域にいと、中学校との接点は確かに少ないが、お祭りや地区の運動会などで中学生が活躍している姿を見ることができ、その際にあいさつをしっかりとしている子を多く見かける。 ・校内で発生した事案に対しては、速やかに関係者から話を聞き取る等、迅速な対応を全職員で意識する。問題が発生した際は、学級担任一人で対応するのではなく、複数の職員でチームを作り、問題解決に向けて事案への対応を行う。 ・SNSトラブルや校外における問題行動など、教職員の目の届かないところで発生する事案が年々増加している。校内で整理した情報を、学校教育課や青少年育成センター、警察といった関係機関と共有し、協力して事案に対応していく。	
英気	「わかる・できる」授業、「学ぶことが楽しい」授業の実現に努め、基礎・基本の定着を図る。	○授業に関するアンケート実施 ・生徒への質問：3～5、16～35 ・教師への質問：8～12、16 ・保護者への質問：6	(評価 B) (1)教科指導について…生徒アンケートより ◎問3「グループで話し合ったり発表したりすることが多くある。」52.5%→85.6% ○生徒アンケートで肯定的回答が上昇した教科「楽しい」「分かりやすい」ともに向上した教科「数学、保健体育、技術、英語」 (2)特別の教科道徳について…生徒・教師アンケートより ○生徒「道徳の授業が心に残っている」66.3% → 68.7% ○教師「生徒の心に残る道徳の授業を行っている」80.0% → 85.0% (3)教師アンケートより ○問8「分かる授業を実践している」100% → 95.0% ※よくあてはまる 40.0% → 55.0% ○問9「楽しい授業を実践している」95.0% → 95.0% ※よくあてはまる 35.0% → 60.0% ○問11「生徒が考えをまとめたり発表したりする場が多くある」75.0% → 85.0% ※よくあてはまる 30.0% → 60.0% (4)保護者アンケートより △問6「学校は分かりやすい授業をしている」64.6% → 60.6% ※よくあてはまる 15.2% → 14.2%	【グループで話し合ったり発表したりすることが多くある】 ・「わかる喜び、考える楽しさを育む授業づくり」をテーマに、本年度は2回上越教育大学教授を講師に研修を行うなど、全職員で授業力向上に取り組んでいる。主体的、対話的で深い学びを実現するために授業実践を進めてきた成果として、生徒評価が85.6%と、大幅に増加した。 【(教科)の授業は楽しい、分かりやすい】 ・左記以外に、生徒評価の前年度比較で減少はしているものの、国語、社会、理科、家庭などの教科において、肯定的な回答80%以上の高い割合を維持している。 ・「自ら考え続ける」生徒の育成を目指し、特に授業の導入部を大切に授業を実践している。学習事項と日常生活との関連を示すことで生徒に興味・関心をもち、関心「○○できるようにしよう」等明確な目標を設定、提示することで、生徒に「できた」と実感させたりといった工夫を各教科で行った。次年度はさらに生徒の学びを深められるよう、授業の終末で、学習の成果を生徒同士で伝え合うなどまとめ段階の工夫に取り組んでいく計画である。 【道徳の授業が心に残っている】 ・道徳の授業では、答えが一つに決まらない道徳的な課題を、生徒一人一人が自分事として捉え考えられるよう展開を工夫している。今後も「考える道徳」「議論する道徳」を通して、生徒の道徳的価値を高められる授業に取り組む。	・現代は、スマートフォンを使い、インターネットから簡単に情報を手に入れることができる時代である。便利な一方で、検索履歴等から偏った情報が得られてしまったり、多くの情報が得られるものの考えは浅くなってしまったりするなどの懸念もある。考える力が落ちている現代において、中学校で「考える」ことを重視して授業を行うのは、とても良いことだと考える。 ・話し合うことが得意な生徒もいれば、苦手な生徒もいることだろう。話し合いを苦手と感じる生徒が疎外されないように、先生方にはフォローをしてもらいたい。	・「わかる喜び、考える楽しさを育む授業づくり」をテーマとした授業研究は次年度も継続していく。導入部だけでなく授業のまとめの部分で、生徒に考える楽しさを味わわせたり、学びを深めたりする工夫に取り組む。 ・道徳授業においても「考え、議論する道徳」の取組を継続し、生徒の道徳的価値を高められる授業を全学級で実施する。
剛健	「かたばみ三訓(夢・鍛錬・挨拶)」を基盤に、さわやかで逞しい生徒の育成を目指す。	○「かたばみ三訓」に関するアンケート実施 ・生徒への質問：9～11、13 ・教師への質問：12、14、15、18 ・保護者への質問：7、8、11 ・地域住民への質問：6	(評価 B) (1)生徒アンケート結果 ○問12「わたしは、さわやかなあいさつを心がけている」76.7% → 77.7% (2)教師アンケート結果 ◎問4「子どもたちが安全な学校生活が送れるよう常に気にかけている」※よくあてはまる 65.0% → 70.0% (肯定的な割合はR6・R7とも100%) ○問18「さわやかなあいさつを心がけている」95.9% → 95.0% (3)保護者アンケート結果 ○問8「教職員はさわやかなあいさつをして対応がよい」79.4%→78.8% ○問11「学校は生徒の安全・安心に配慮している」73.2%→74.9% (4)地域住民アンケート結果 △問6「中学生のあいさつ」54.2% → 46.5% ※分らない 8.3% → 25.0% △問8「教職員の対応はよい」66.7% → 53.5% ※分らない 25.0% → 42.9%	【さわやかなあいさつを心がけている】 ・生徒評価では77.7%と、多くの生徒がさわやかなあいさつを心がけていると答えている。生徒会役員もキャンペーンを企画して朝のあいさつ運動に取り組んでおり、校内では来客や教職員に対してあいさつをする生徒の姿が多く見られる。 ・地域住民アンケートの肯定的な回答が46.5%に減少した。時勢的にも生徒が地域の方と校外であいさつを交わす機会が少ないと考えられるが、登下校の見守りをしていただいている顔なじみの方や地域行事にてお世話になっている方等へ、場に応じた対応ができるよう指導をすることで、地域の中で活躍する上中生を育てていきたい。 【安心・安全な学校生活】 ・毎年実施している職員研修(不審者対応訓練)では、警察官を講師に招き、職員が率先して来校者へ声掛けをすることが、対応の第一歩であることを確認した。他にも傷病者発生時対応訓練で、具体的な状況を設定したシミュレーション実習を行うことで、職員の安全意識を高めている。今後も生徒が安心・安全に学校生活を送ることを第一に考え、研修や訓練を実施していく。	・子どもが顔見知りではない地域の方へあいさつをしたり気軽に声をかけたりすることがある一方で、知らない人とは話してはいけないと考える子もいる。保護者の考え方、家庭での教育の影響も大きいかと考える。 ・生徒会活動のあいさつキャンペーンやPTAと協力して行うあいさつ運動など、校内におけるあいさつの励行は今後も継続していく。 ・各コミュニティの活動を中心に、地域の中で中学生が活躍できる場が設定していただけるのはとてもありがたいと考えている。学校と地域とで、適切な協力関係を今後も構築していきたい。 ・生徒が安心・安全に学校生活を送ることができるように、学校安全のための職員研修を、継続して実施する。	
協調	キャリア教育を軸とした特色ある学校づくりを計画的・系統的に推進する。	○キャリア教育に関するアンケート実施 ・生徒への質問：14 ・教師への質問：13	(評価 B) (1)生徒アンケート結果 △問15「将来の希望や夢がある」68.7% → 65.6% ○問11「公共物(学習用タブレット端末など)を大切に扱っている」97.0% → 94.6% (2)教師アンケート結果 △問13「継続的なキャリア教育(進路指導)」90.0% → 85.0% ◎問21「公共物(学習用タブレット端末など)を大切に扱うよう指導している」95.0% → 100%	【将来の希望や夢がある、将来を見通した継続的なキャリア教育を行っている】 ・生徒評価、教師の自己評価ともに微減した。 ・本アンケートを実施した後、1年生は「職場体験学習(職業講話)」を、2年生は「上級学校の話(聞く会)」や「未来の描き方講座」、管内商業高校生徒を講師に招いた「マナー講座」を開催している。今後も卒業後の進路だけでなく、生徒一人一人が将来を見通すことができるよう、継続的なキャリア教育を実施していく。 ・卒業後の進路選択、進路決定の時期が令和5年度から早くなってきている。家庭へも事前に計画を示し、余裕をもってそれぞれの特性や希望にあった進路選択をすることができるよう、指導を行う。 ・今年度も東海市のICT活用協力校に選定されており、様々な教科の授業において、生徒が学習者用タブレットを使用することが日常となっている。	・他中学校で、生徒が事業所に体験・インタビューに来たところもあった。生徒にとってよい経験ができるように、キャリア学習が計画できるとよい。 ・中学校卒業後の進路先を決定するだけでなく、生徒が自身の将来を思い描くことができるよう、中学校3年間を通してキャリア教育を計画・実施する。 ・卒業後の進路選択のための情報を、適切な時期に生徒や家庭に伝達し、生徒の希望に合った進路選択ができるように進路指導を行う。	
地域連携	地域や保護者とともに歩み、開かれた学校の創造を目指す。	○ボランティア・学校行事協力に関するアンケート実施 ・生徒への質問：12 ・教師への質問：5、6、17 ・保護者への質問：3、12～14 ・地域住民への質問：2、7～10	(評価 B) (1)教師アンケート結果 ◎問5「保護者の願いを指導に生かす」95.0% → 100% (2)保護者アンケート結果 ○問3「学校は保護者の願いに応じている」66.2% → 67.6% △問12「学校からのメッセージ配信等により適切に情報を知ることができる」86.9% → 85.5% (3)地域住民アンケート結果 △問7「中学校からのお知らせにより、学校の様子が分かる」58.3%→42.8% ※分らない 25.0% → 35.7% ○問9「協力依頼があれば、できるかぎり協力したい」66.7%→78.6%	【学校は保護者の願いに応じている】 ・保護者評価は67.6%に微増した。 ・学校運営や行事に関して、保護者からeメッセージやPTA役員を通じて、様々なご意見を頂いていく。 【学校からのメッセージ配信等により適切に情報を知ることができる】 ・保護者評価は85.5%と肯定的な回答の割合は高い。地域住民の評価は42.8%に減少した。 ・eメッセージを通じて、学校が作成するさまざまなよりや連絡事項等を配信している。生徒を通じての配付ではないため、直接保護者のもとに届いているよさがアンケート結果に表れていると考えられる。学校だけでなく、毎日更新を目指している学校ホームページ「上中ニュース」で、生徒や教職員の日々の活躍を紹介することで、多くの方に上野中学校の様子を知ってもらえるよう、今後も取組を継続していく。	・青色パトロールが夕方巡回しているも、子どもの姿を見かけることが少ないと聞く。各家庭にしながら、ゲームやインターネットで友人同士つながっている様子である。下校後の子どもたちの生活の様子が変わってきていると感じる。 ・昔は学校のたよりが回覧板等で地域に示されていた。そういったおたよりがデータ配信になったことによって、地域の方が中学校の様子を知る機会が減ってしまったのかと思う。	